

ヒンドゥー教にみる方角 ——プラーナ文献を中心として——

引 田 弘 道

1. はじめに

Varāhapurāṇa (29.1-13) によると、10 の方角が女神としてブラフマンの耳から生じたとされる。彼女等は東・南・西・北・上・下の主要な 6 女神と、東南・南西・西北・東北の 4 女神である。女神の請いに応じて、ブラフマン神は世界の主を創造して、彼女等と結婚させた。つまりインドラ神（東）、アグニ神（東南）、ヤマ神（南）、ニルリタ神（南西）、ヴァルナ神（西）、ヴァーユ神（北西）、クベーラ神（北）、イーシャーナ神（北東）である。ブラフマン神自体は上方を支配し、下方はシェーシャ神蛇（Śeṣa）に与えた。さらに ŚivaP (RudraS 2.38.12) では、王は 8 方角神の身体を保持しているため、あらゆるカーストでもっとも優れているとされる。

これらの方角神は、プラーナ文献ばかりではなく、叙事詩、グリフヤ・スートラなどの文献においても研究されてきた。古くは、E.W. Hopkins¹⁾、W. Kirfel²⁾、最近では永ノ尾博士³⁾、Cordinna Wessels-Mevissen⁴⁾ などである。

ただ本稿においては、これらの方角神に関してではなく、方角一般がヒンドゥー儀礼においてどのような役割を担っているのか、また方角に吉凶、優劣があるのかを中心に調べてみることにした。調査の対象文献としては、主として以下のプラーナ文献を参照した。

AgniP: *The Agnimahāpurāṇam*, Delhi: NAG Publishers, 1985.

GaruḍaP: *The Garuḍapurāṇa. Sāroddhāra. The Sacred Books of the Hindus*, Allahabad: Sudhindra Natha Vasu, (1911) 1974.

VarāhaP: *Varāha Purāṇa. Text with English Translation*, Varanasi: All-India Kashiraj Trust, 1981.

ŚivaP: *The Śivamahāpurāṇam*, Delhi: NAG Publishers, 1986.

2. 具体的事例

A. 四方のなかでの優劣

（1）カーストと四方

AgniP (218.18-20ab) によると、王の灌頂儀礼において四カーストに属する大臣が王に灌頂を行う。バラモン大臣は東にいて *ghṛta* のつまった黄金の瓶をもって、クシャトリヤ大臣は南にいて *kṣīra* の入った銀の瓶をもって、ヴァイシャの大臣は西にある *dadhi* のつまった銅の瓶をもって、シュードラの大臣は北にいて水のはいった粘土の瓶をもって、王に灌頂を行う。これにより東・南・西・北の順で方角の順位が決まることが分かる。

いっぽう、AgniP106.6cd-13 における都市の配置の記述にあっては、東がクシャトリヤ、南はヴァイシャ、西はシュードラ、北はバラモンに住居を配するという表現が認められる。さらに *Bṛhat Saṃhitā* (86.34) にも、「東等は王・王子・指揮者・使者・商人・スパイ・バラモン・象の主である。四方はクシャトリヤを始めとする。」という表現がある。さらに *Bṛhat Saṃhitā* (86.45) に「東は馬と白いものが優れており、南は死体と肉が、西は乙女と凝乳、北は牛・バラモン・聖者が優れている」という表現もある。

（2）ヴェーダと四方

方角とヴェーダとは一定の関係が認められる。AgniP (34.5) で、リグ・ヴェーダはインドラの飾りで東、ヤジュル・ヴェーダはヤマ神（南）の吉祥なもの、サーマ・ヴェーダは水（西）、アタルヴァ・ヴェーダはソーマ（北）とされる。一方、AgniP (96.38cd-41cd) では、バラモンの配置として、リグ・ヴェーダバラモンは東、サーマ・ヴェーダバラモンは南、ヤジュル・ヴェーダバラモンは西、アタルヴァ・ヴェーダバラモンは北でそれぞれのヴェーダを唱える。

また *VarāhaP* (39.51-52) では、東はリグ・ヴェーダ、南はサーマ・ヴェーダ、西はヤジュル・ヴェーダ、北はアタルヴァ・ヴェーダに配されている⁵⁾。さらに同じ *VarāhaP* (75.15-17) には、東はバラモンと白色、南はヴァイシャと黄色、西はシュードラと黒色、北はクシャトリヤと赤色とを関連させる表現もある。この色と方角とが関係した記述は *VarāhaP* 75.51-52 にも認められる。

（3）四方の瓶の水から沐浴する効果

沐浴において、どの方角に置かれた瓶から沐浴するかで、その効果が異なるとされる。*VarāhaP* (98.33-36) には、幸運 (*śrī*) を求めるに者は東の瓶から、物質

(250)

ヒンドゥー教にみる方角 (引 田)

的豊富さと威力 (dravya-pratāpa) を求める者には東南の瓶から、不死 (mr̥tyuñjaya) を求める者には南の瓶から、悪人の放逐 (duṣṭa-pradhvaṃsana) には南西の瓶から、寂靜 (śānti) のためには西の瓶から、過失の除去 (pāpanāśa) のためには北西の瓶から、財貨の増加 (dravyasampatti) のためには北の瓶から、知識 (jñāna) のためには北東の瓶からの水で沐浴させると説かれている。日々の生活においても、方角は重要な役割をはたしている。例えば、AgniP153.13 では、東面して食をとると長寿を得、南面して食をとると名声を得、西面して食をとると幸運を得、北面して食をとると真実を得る、とされる。

次に特定の方向に何らかの意味合いがあるか調べてみる。

B. 祭式における方角

(4) 地域の聖別化と北東

AgniP (27.7) によると、水は沐浴ばかりではなく、周囲に撒くことによりその地域を聖別化することが可能となる。その場合、phaṭ というマントラを唱えることもあれば、水の代わりに胡麻をまく場合もある。この水は神のシャクティ (śakti) を入れたヴァルダニー (vardhani) 瓶を持って行われる。水を撒いた後、その瓶は北東の方向に安置される。入門式において、ヴァルダニー瓶にアストラ・マントラを唱え、この瓶から水を流し、その瓶を北東に置く。

同じ AgniP (34.14-15ab) では、北東に瓶とヴァルダニー瓶を置き、瓶にはハリ神をヴァルダニー瓶にはアストラを供養する。その後、右回りで祭式の小屋の周囲をヴァルダニー瓶から水を撒く、とある。これと同じ表現がシヴァ神の場合にも認められる。たとえば、AgniP (78.30cd-33) では、瓶にシヴァ神、ヴァルダニー瓶に神の武器を供養し、四方八方に方角神などを供養した後、ヴァルダニー瓶を手に取り、シヴァ神の命令を聞かせたあと、東から東南への順で周囲に絶え間無くヴァルダニー瓶からのミルクの流れをかけながら、根本マントラを唱える、とある。

(5) 入門式 (dīkṣā) における方角

AgniP (81.27-30) によると、samaya-dīkṣā のさい、師は手に智剣をもち、南西を向いて、牛の5種の産物やアルガ水をもって祭式小屋を清める。その後 vikira を撒き、クシャ草の束で集め、それらを北東の方向にヴァルダニーのための敷物とする。北東にある瓶にシヴァ神を供養し、その瓶の南にシャクティ、さらに西にライオンにまたがる智剣の姿をしたヴァルダニーを供養する。このように北東がシャクティを表すヴァルダニーの瓶の場所とされている。北東が重要であるこ

とは ŚivaP (VāyaviyaS 2.16.3cd-4) に「八方向に 8 つの火炉を作り、北東のもの、あるいは西のものを主要な火炉とする」という表現がある。

いっぽう、nirvāṇadīkṣā において、生徒が解脱を求める場合は、北を向かせ、現世利益を求める場合は東を向かせるとあり、北と東が吉祥な方向とされている (AgniP 83.41cd-42ab)。

(6) リンガの奉納儀礼

AgniP (92.16cd-17ab) では、まず土地の取得 (bhūparigraha) の際、鋤で掘り起こした土を南西の穴に入れ、そこに瓶の水を注ぐとあり、掘り返された土を置いておく南西の穴は何のパワーも感じられない場所である。

反対に、AgniP (97.4-5ab) によると、北東はパワーに富んだ場所である。リンガは寺院の中央ではなく、北東に幾分 (半ヤヴァくらい) ずらす。それは中央が急所 (marman) であるという理由のためである⁶⁾。

また AgniP (41.36) では、ヴィシュヌ神像の奉納儀礼で、寺院は村の中央または東に建つ場合は西に向く。北、南、西、あるいはあらゆる角に建つ場合は東に向くとあり、東が吉祥な方角とされる。

さらに、奉納儀礼に関連して、寺院建築の最初の段階に行う地鎮儀礼の「ヴァーストゥ・プルシャ」のマンドラでは、この人間の姿をしたプルシャを、頭を北東に、足を南西にして描く⁷⁾。

(7) 南西

ŚivaP (RudraS 2.22.44) では、方角神の記述のうち、南西は悪霊の王とされる。ここで koṇaparāja は kaṇapa (悪霊) の王とあり、南西 (nirṛti) であるとされる。また同じ ŚivaP (RudraS 5.15.16) では、アスラのラーフは南西を支配するが、乳海攪拌により生み出されたアムリタを飲んだためヴィシュヌ神によって首を切られる。さらに、ŚivaP (RudraS 3.43.18) では、南西を意味する Nirṛti は悪魔 Puṇyajana の主とされる。

(8) チャンダ神

ŚivaP (KailāsaS 9.28; KailāsaS 9.34cd; VāyaviyaS 2.24.21cd) には、祭式にあって、その祭式の過少の過失を消すために、北東のチャンダ神に nirmālya を供養する⁸⁾、とある。ここでも北東は力あるチャンダ神のいる方角とされている。

(9) 呼吸の制御 (prāṇāyāma)

ŚivaP (KailāsaS 12.70cd, 98; VāyaviyaS 1.33.6ab) によると、呼吸の制御を行う場合は東面する。あるいは北面する場合もある (ŚivaP KailāsaS 6.3)。呼吸の制御を始

(252)

ヒンドゥー教にみる方角 (引 田)

める前、東面して両足・両手を洗い、口を漱ぐ (VarāhaP 134.15-16).

さらに、dahana と plāvana からなる bhūtasuddhi においては、北面または東面する (ŚivaP VāyaviyaS 2.14.21).

(10) 方角の縛り (digbandha)

ŚivaP (VāyaviyaS 2.22.18cd) によると、方角の縛りは東南から始めるとあり、東南が始まりとされる。

(11) 神の観想

ŚivaP (VāyaviyaS 2.22.18cd) によれば、神の観想をする者は、東面もしくは北面する。

(12) 聖典の読誦や聴聞

シヴァ・プラーナを語る者は北面し、聴聞者は東面する (ŚivaP mähātmya 6.20ab) とあり、またアルジュナはヴァーサ仙から東面してインドラ神讃歌を受け取るとある。(ŚivaP ŚatarudraS 37.63)

C. 布施やバリと方角

(13) 神への布施と方角

GaruḍaP (13.70-71) にれば、神にベッドの供養をする場合、北面してマントラを唱える。さらに ŚivaP (VāyaviyaS 2.26.26cd-27) では、シヴァ神の供養でも北面して布施し、バリも北面して行うとある。AgniP (210.13cd-15ab) では、牛の布施のとき、まず牛糞を塗り、ダルバ草を敷き、その上に黒羊の皮を4指の厚さに首は東に向けて敷く。雌牛を首は東に足は北に向けて、子牛と一緒に用意する。あるいは、布施は東を向いて、布施を受納する人は北を向くとある (AgniP 209.21ab)。さらに VarāhaP (102.12) では、牛を布施する場合、施者は東面あるいは北面し、牛は東面、子牛は北面する。

D. 祖先崇拜や地獄の描写における方角

(14) ヤマの都の位置と到る道

ヤマ神の都は南と南西の間に位置する (GaruḍaP 14.4)。このヤマ神の都に、罪人は死後、恐ろしい道を通って南よりヤマ神の都に入る (ŚivaP UmāS 7.6)。ヤマの都の南門に続く道は恐ろしい道とされる (GaruḍaP 2.85-86)。善人は他の3門から、悪人は南門からヤマの都に入る (GaruḍaP 4.3)。反対に善行をなした者は死後、東のヤマ神の都へ楽々と入る (ŚivaP UmāS 7.5)。ヤマ神の都への道は4つある。第1は東で楽しみあふれた道 (GaruḍaP 14.51)、第2は北の道 (14.59)、第3は西の道 (14.65) であり、南の道が最も悪いということになる。

(15) 死者儀礼

死者のために縁者は西・北西・南・南西の烏にバリを施す (ŚivaP UmāS 10.36). 祖霊祭のおり、烏に祭餅を与えるマントラ「東・西・北西・南・南西にいる烏らは私が用意したこの祭餅を受け取れ」と唱える (AgniP 264. 24cd-25ab). 神への崇拜では東面したバラモンに、祖霊崇拜では北面したバラモンに食を捧げる (VarāhaP 14.12).

死者を荼毘する際、斎場で北面して横たえる (GaruḍaP 10.16). さらに、骨揚げの際、斎場の3方向に3個の祭餅を南面して布施し、北に15歩歩いて、骨壺を納める (GaruḍaP 10.72,75).

E. 日々の行事における方角

(16) 師の寢床を汚した者

AgniP (169.22) には、師の寢床を汚した者は、自身でペニスと睾丸を切り落とし、掌をもって、南西の方角に倒れるまで歩くとある。YājñavalkyaS 3.259; ManuS (The Kashi Sanskrit Series 114) 11.104 などの他の法典類にも同様な表現が認められる。VasiṣṭhaS 20.13 のように南と記述する場合を除いて、他の大多数は南西と記す。

(17) 沐浴

これは北面または東面して行う (ŚivaP RudraS 1.13.14).

(18) 歯磨き

歯磨き (dantadhāvana) は北面して行う (ŚivaP KailāsaS 4.12cd). また口すすぎ (ācamana) も北面して行う (ŚivaP RudraS 1.13.40)).

歯磨き用の木片を投げて、それが東、北、西あるいは前に落ちたら吉祥、それ以外は不吉となり、火供を行う必要がある (ŚivaP VāyaviyaS 2.17.39-40).

(19) トイレ (小便と大便)

AgniP (155.1cd-2ab) によると、トイレは昼は北面して、夜は南面して行う。同様に、朝の儀礼として、朝早く起きて東面して神などを念想し、北面してトイレをする (ŚivaP VidyeśvaraS 13.7ab, 9cd, 10cd). いっぽう、シヴァ神の供養儀礼 (Śivapūjana) で、朝早く起き、南の方向に歩いて行って用を足すという表現もある (ŚivaP RudraS 1.13.5cd) が、一般的にトイレは北、神を念想する場合は東を向くと言えよう。

(20) 軍隊の進軍と方角との関係

「不敗」を意味する aparājita が同時に北東の方角を指すことは周知の事実であるが、AgniP (232.36c; 37cd) によると、軍隊の進軍に (yātrākāle raṇe) 都合のよい方角は、東・西・北東・北とされる。また、東の Kṛttikā などの星座、南の Magha

(254)

ヒンドゥー教にみる方角 (引 田)

などの星座, 西の Maitra などの星座, 北の Vāsava などの星座の場合, あらゆる道は (sarvadvārāṇi) 賞賛されている (233.7-8a). 反対に, 進軍を控えるべき方角神 (pratilome dikpatau; AgniP 233.2) も記されている. さらに, 北西と南東から生じた門ははずすべきではない. つまり進軍すべきではない (AgniP 233.6ab).

3. まとめ

以上の具体的事例でも分かるように, 東や北は, それぞれ物事の最初もしくは最上をも意味する吉祥な方角だと言えよう. 布施をしたり, 聖典を唱えたりする場合は東あるいは北を向くことが一般的である. さらに東と北とに挟まれた北東は何らかのパワーの宿る方角でもある.

反対に北東と真逆の南西は, 死と規則とを意味するヤマ神の南とヴァルナ神の西とに囲まれた方角であり, 悪霊, 規則違反者の方角であり, なおかつ何らのパワーもない方角だとも言える. 南は死者の進むべき方角であり, 不吉な方角である.

1) *Epic Mythology*, Delhi: Motilal Banarsidass, (1915) 1974, pp. 149-152.

2) *Die Kosmographie der Inder*, Bonn u. Leipzig: Kurt Schroeder, 1920, pp. 94-95.

3) Shingo Einoo, "Ritual Calendar. Change in the conceptions of time and space," *Journal Asiatique*, tome 293, numero 1 (2005), pp. 111-119.

4) *The Gods of the Directions in Ancient India: Origin and Early Development in Art and Literature (until c. 1000 A.D.)*, Berlin: Reimer, 2001.

5) その他 VarāhaP 144.26-34 を参照. ここでは南とリグ・ヴェーダ, 西とヤジュル・ヴェーダ, 北とアタルヴァ・ヴェーダ, 北東とサーマ・ヴェーダとの関係が説かれている. また, VarāhaP 149.71-73 を参照. ここでは東とサーマ・ヴェーダと黄色, 北とリグ・ヴェーダと金色, 西とヤジュル・ヴェーダ, 南とアタルヴァ・ヴェーダとの関係が説かれている.

6) 小倉泰『インド世界の空間構造—ヒンドゥー寺院のシンボリズム』東京大学東洋文化研究所, 平成 11 年, 80 頁参照.

7) 前掲書, 12 頁.

8) *Somaśambhupadhati* vol.1 (1963), by H. Brunner-Lachaux, Pondichéry: Institut Français d'Indologie, 5.8 (p. 283) にチャンダ神供養の目的が説かれている.

sarvam etat kriyākāṇḍam mayā caṇḍa tavājñayā /
nyūnādhikam kṛtam mohāt paripūrṇam tad astu me //

〈キーワード〉 プラーナ, 方角, 北東と南西

(愛知学院大学教授, 文博)